

復興に向けてこれからが正念場 東日本大震災 被災者支援活動

すでにご存じのとおり私たちの活動は多岐にわたっていますが、阪神淡路大震災の避難所支援がその原点です。

東日本大震災は、昨年秋に東北の被災地を訪れたスタッフによると、津波と原発事故の影響もあって、被害の規模・範囲とも17年前の神戸とは比較にならないほどであり、復興・復旧の遅れは予想以上のことです。

最近では新聞・テレビ・ラジオなどのメディアで伝えられる時間が少なくなっていますが、世間の関心が徐々に薄れていくこれからが正念場であり、私たちは引き続き被災地、被災者の皆さんをサポートすることが使命と考えています。



2011年11月27日 石巻市雄勝町水浜地区

最近増えてきているこんな仕事 遺品整理・処分「アントキノイノチ」

2009年出版、歌手のさだまさしさんの小説が昨年11月に映画化されました。舞台は遺品整理業者ですが、実は私たちへも、これまでの引越や大掃除のお手伝いから派生して同じような依頼があり、最近すこずつ増えています。

もっとも作品にある、孤独死現場のような生々しい場面に遭遇することはなく、同居されている遺族からの依頼だけですが…。

故人の想いがつまった品物の数々を丁寧により分け、家具などでまだ使えるものはリフォームして再生し、処分するものは分別して処分場へ運ぶなど一連の作業を粛々と進めています。

スタッフ募集中

できるときに、できることを、できる人が

これまでご紹介したように、私たちの活動は今年も、質・量ともに大きく広がっていきます。

その他継続して行っている事業

○何でも110番…日常の困りごと、家具の移動、庭木の剪定、簡単な電気工事など、よろず引き受けます。お気軽にご相談下さい。

○地域支援事業…給食サービス、買物や病院への移送サービスの他、ふれあい喫茶の運営、地域イベント(盆踊り・餅つき)等の地域コミュニティづくりにもご利用下さい。

特にさまざまな経験や専門的知識、得意分野をお持ちの方、さらに常勤スタッフとして活動に参加できる方を広く求めています。

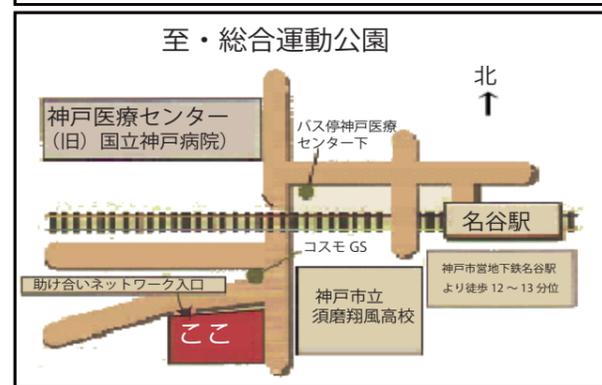
条件、待遇などについては、納得いくまで話し合いのうえ決めます。お気軽にお問い合わせください。

また、神戸西助け合いネットワークの事をもっと詳しく知りたい方はホームページを開設しておりますので、そちらの方をご覧ください。「神戸西助け合いネットワーク」で検索して下さい。

特定非営利法人 (NPO 法人)
神戸西助け合いネットワーク
理事長 在里 俊一

〒654-0155 神戸市須磨区西落合2丁目1-6
TEL078-795-3786 FAX078-795-4498

〒654-0076 神戸市中央区吾妻通4丁目1-6
コムスタ神戸2F リサイクル工房あずま内
TEL/FAX 078-795-3786



■私たちの活動にご協力ください

ゆうちょ銀行 振替口座 00960-7-108420
名義：神戸西助け合いネットワーク

【賛助年会費】

個人会員 一口 3,000円
団体会員 一口 10,000円
(賛助金は1口以上、何口でもお受け致します)

NPO 法人 神戸西助け合いネットワーク 私たちの活動ニュース

平成23年度活動報告
第10号
平成24年1月1日
発行人：在里俊一
特定非営利法人
神戸西助け合いネットワーク

平成24年 新年のごあいさつ

特定非営利活動法人 神戸西助け合いネットワーク 理事長 在里 俊一

新年を迎えるにあたりご支援頂いている、みなさまにご挨拶を申し上げます。

17年前の阪神・淡路大震災から、人は一人では生きていけない、助け合い励ましあい支えあうこと、人と人の絆の大切さを私たちは教わりました。

その震災に対し、まちの復興や被災者支援のために、神戸西助け合いネットワークが設立され、そして今日まで被災者ならびに、高齢者・障害者・ひとり暮らしの高齢者などの支援で地域福祉の向上の活動を行ってきました。そしてまた自分だけよければという社会からみんなで支えあい助けあう地域社会を思い描いて活動してきました。

このような時、思いもよらぬ大惨事が昨年3月11日に起こりました。東日本大震災は大津波と原発事故という未曾有の大惨事です。阪神・淡路大震災よりもはるかに広範囲で、膨大な犠牲者の数や被害の大きさに日本中を震撼させました。その1週間後、東日本の被災地から避難してこられた方々から救いを求められました。

遠く関西まで着の身着のまま避難してこられた方々のために、私たちは冷蔵庫、洗濯機、電子レンジなどの生活必需品を揃えて支援活動を展開いたしました。

それは17年前、阪神淡路大震災の復興に向けて、日本中の、また海外のみなさまから絶大なるご支援を頂き、お蔭様で何とかここまで復興できた私たちの感謝の気持ちをこめての支援活動です。しかし、それはまだ始まったばかりです。これから長期にわたって息の長い、できる限りの支援活動を展開していきたいと思ひます。

私たちの神戸西助け合いネットワークは、この17年間の活動から発展して環境問題にも取り組むようになりました。平成18年から太陽光発電や使用済み

の天ぷら油を回収してバイオディーゼル燃料に取り組んできました。環境問題への取り組みを通じて私たちは、自然の偉大さ、自然の恵みに対するありがたさをよりいっそう感じてきました。

昨年は東日本大震災と原発事故、紀伊半島での台風被害、タイの洪水、トルコでの地震など大変心の痛む災害が発生しました。これらの災害は、私たち人間の生き方に多くの示唆を与えているように思います。それは、人間は大自然の中で生かされていると言う謙虚さを求め、社会や経済のシステムを方向転換するよにということではないでしょうか。

今、私たちが考えなければならないことは、人と自然とが共存していく社会づくりではないでしょうか。みんなで力を合わせて太陽光や風力の発電などの普及と拡大で脱原発を推進すること。かつての日本人がしてきたように、みんなで知恵を絞り日本の豊かな自然の山林や藪などの資源を活用していきましょう。それらを燃料やトレーなどに上手に活用して脱化石燃料化を推し進め、山林や藪などをよみがえらせたいと思ひます。さらに必要以上の消費をやめて自然環境に優しい生活に努め、エネルギーとか食料問題のためにも、農業や林業の発展を促進させて行く必要があります。

日本の農業や林業を再生させることは決して容易ではありませんが、我が国の将来にとってどうしても実現していかなければならない、大変重要な課題です。私たち神戸西助け合いネットワークもこの問題に可能な範囲で取り組んでいきたいと思ひます。

美しい日本のために

そして

未来の子供たちのために！！

平成 23 年 私たちの主な活動

神戸ふれあいフェスティバルに参加

平成 23 年度ふれあいの祭典は 10 月 15 日（土）・16 日（日）に神戸メリケンパークで開かれた「神戸ふれあいフェスティバル」（兵庫県を主体とする実行委員会主催）。

私たちは「ふれあい塾コーナー、地産地ショウの 9（区）Show～神戸市内各区ごとの特色あるグルメの販売～」須磨区ブースに出店参加しました。



須磨区ブースは、神戸市漁協に所属する若手漁師のグループ「底曳会 漁人神戸」と共同で運営し、彼等は「ピリ辛！魚人なべ」を販売。私たちは NPO の活動を紹介するとともに、飲食を扱った各ブースで使った使用済み食用油をその場で回収しました。その結果 20 リットルポリタンク 8 個分を回収、出店者の皆さんからは後片付けが楽になったと喜ばれたうえ、大きな PR の成果を上げました。

開催初日には小雨も降りましたが、多くの人たちが訪れ、須磨区ブースで用意した「ピリ辛！魚人なべ」210 食、ビールなど 300 本を完売しました。



「ケータイ塾」の開催

特に高齢者に多い、社会問題化しつつある IT 情報格差、いわゆるデジタルデバイドを少しでも解消しようと、Eメールを中心に携帯電話の使い方を指導する「ケータイ塾」を開きました。

11 月 27 日（日）、須磨区菅の台「名谷南会館」に 12 名が参加。この「ケータイ塾」は私たちが主催し、神戸新聞名谷中央販売所に後援を仰ぎ、指導は流通科学大学情報フォーラム部の学生の皆さん 14 名にご協力いただいて開催したものです。

講座は携帯電話会社 3 社（au、ドコモ、ソフトバンク）ごとのグループに分かれて、学生たちによるほぼ個人指導の形で 2 時間にわたって行われ、文字入力の方法、メールアドレスの登録など基本的なことから始められました。

その成果として終了時には全員が「神戸西助け合いネットワーク」あてのメール送信に成功、受講者たちから歓声が上がりました。



今回の受講者はほとんどが近隣在住者で、年齢構成は 80 歳代が 4 名、70 歳代 5 名、60 歳代 3 名で、最高齢の方は 85 歳で兵庫駅前通から来られた方でした。また携帯電話は au 4 名、ドコモ 4 名、ソフトバンク 2 名で、持っていない方が 2 名でした。

今回の開催にあたって、流通科学大の学生たちが近隣に配布してくれた 4,000 枚の案内チラシが主な広報手段でした。今後は広報のあり方を検討するとともに、さらに携帯電話各社との連携も図って、より多くの高齢者の皆さんに参加いただけるよう考えていきます。

平成 24 年 私たちの活動予定

ひと味違った作業所開設に向けて

昨年 4 月、介護保険法に基づく介護サービス事業者の指定を受け、訪問介護・介護予防、通院サポートなどの業務を始めました。

今年は障害者自立支援法に基づく就労継続支援のための施設、いわゆる「作業所」開設に取り組んでいきます。

これは一般企業への就職が困難な障害者に就労機会を提供するとともに、生産活動を通じて、その知識と能力の向上に必要な訓練などの障害福祉サービスを供与することを目的としているものです。

これまでの作業所のイメージは、手工芸品やお菓子を制作するというものでした。私たちが目指すのは、これまでも行ってきたリサイクル事業を基礎とするもので、知的障害を持つ人たちを受け入れる予定です。

仕事は中古の自転車、家具、その他日用品の再生で、比較的単純な作業であるクリーニング、磨きにはじまり、あとは習熟度と能力に応じて仕事のレベルを上げていきます。

この事業の大きな特長の一つとして、健常者である「リサイクル工房」のスタッフと協働することで人と人のふれあい、つながりを保てること、さらに比較的高年者が多いスタッフと若年者が多い入所者との間で分業が期待できることです。作業所は今年春の開設に向けて、着々と準備が進んでいます。



エコ関連事業の継続と拡大

◆太陽光発電◆

今年でちょうど 6 年目を迎える太陽光発電への取り組み。平成 23 年 12 月現在、総発電量は 5 万 8 千キロワットに達しました。（年平均 1 万 1 千キロワット）一世帯あたりの平均年間消費量が 5 0 0 0 キロワット（平成 21 年）ですから、平均すると毎年 2 世帯が一年間使う電力の発電を行ったこととなります。もちろん余った電気は電力会社へ売電し、これまでの累計は 3 8 万円になりました。

福島第一原発事故に伴う電力供給不足で、夏に続いてこの冬も節電を迫られており、今後は原発代替エネルギーへの転換が急速に進むことが考えられます。同時に技術開発が進み、太陽光発電の効率も上がっていくことでしょう。



◆バイオディーゼル事業◆

平成 19 年から取り組んでいる、家庭の食料油の廃油をディーゼル燃料として再利用する、BDF 事業。現在は処理を業者に委託していますが、今後は小型プラントを導入し、独自の精製を計画しています。また知的障害者の「作業所」での仕事の一つに盛り込むことも考えています。

